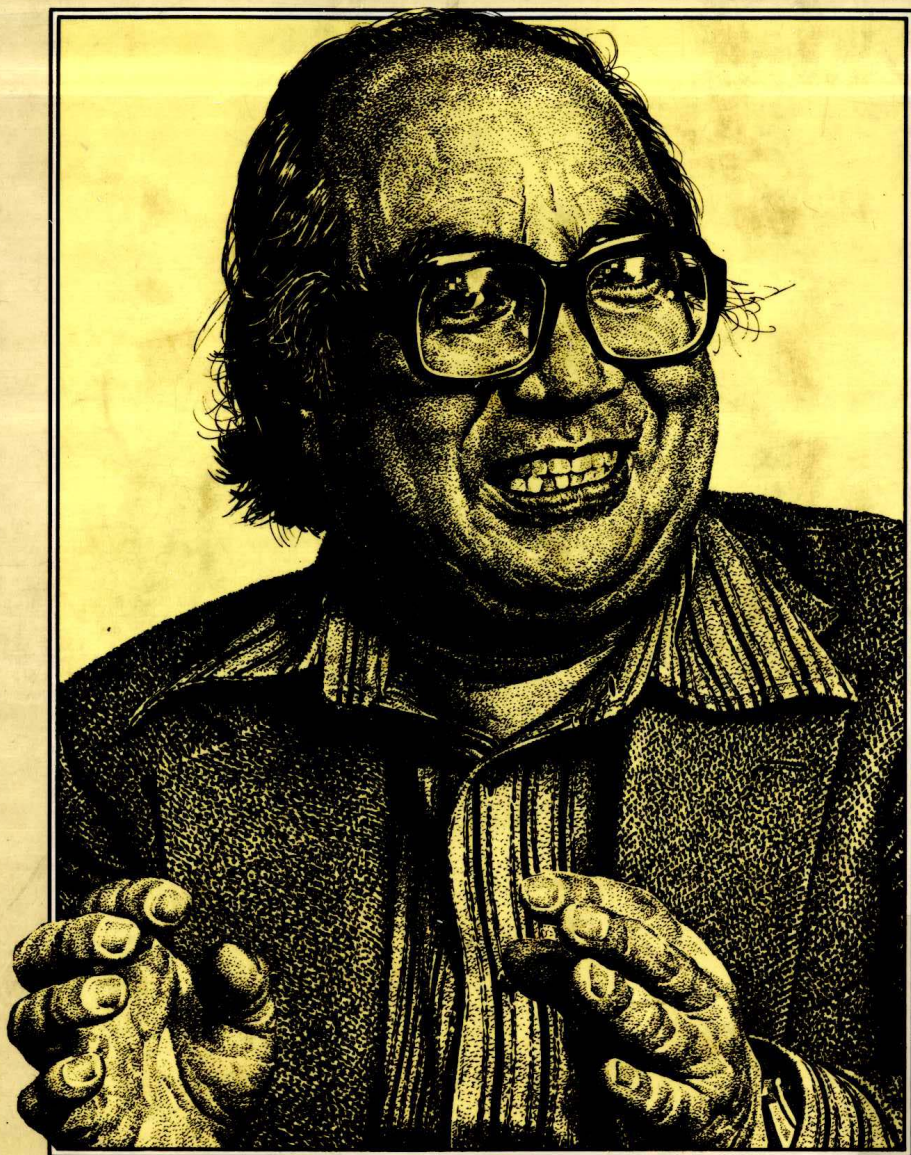


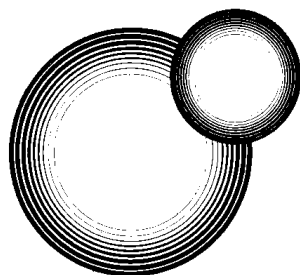
氣くばりのすすめ

鈴木健二



氣くばりのすすめ

鈴木健二



講談社

気くばりのすすめ

著者略歴

一九二九年東京に生まれる。東北大学を卒業し、NHKに入る。朝番組「こんにちは奥さん」を成功させ、全く新しいタイプの人気アナウンサーとなり、人気番組「歴史への招待」「クイズ面白ゼミナール」などで幅広い人気を博している。
著書にはベストセラー『男が40代にやっておくべきこと』など多数がある。

一九八二年九月十日 第一刷発行 一九八三年七月二十五日 第三十六刷発行

著者——鈴木健二

定価——九八〇円

装画——生頼範義

装幀——道信勝彦

© Kenji Suzuki 1982, Printed in Japan



発行者——加藤勝久 発行所——株式会社講談社

東京都文京区音羽二丁目三—三 郵便番号二三

電話 東京〇三—九四—三二二 (大代表) 振替 東京六—三三〇

印刷所——慶昌堂印刷株式会社 製本所——株式会社黒岩大光堂

落丁本・乱丁本は小社書籍製作部宛にお送りください。送料小社負担にてお取り替えます。(学二)

ISBN 4-06-200104-7(0)

氣くばりのすすめ●目次

第一部 氣くばりのすすめ

氣くばりのすすめ

お互いに名前をよく呼び合う 14

アメリカの社長昇格テスト 17

英雄たちの細かい心づかい 22

現代人は氣くばりに不慣れ 25

氣くばりは技術である 27

氣働きと心くばり 32

まちがいと失敗

ドラム缶でおなじみの…… 38

失敗した後の氣くばり 39

無知と経験不足は救える 44

東郷元帥のたった一つのまちがい 46

交通事故は世間の甘さが原因 50

文化はゆとりから生まれる 55

電話の氣くばり 57

積極的に失敗せよ！ 62

些^さ細^{さい}なヒント

英雄は雑事処理の名人 68

些細な事柄に觀察眼を 72

名刺へのちょっとした氣くばり 76

氣くばりは教養がものをいう 80

数学の本が重要な読書分野に 82

読書の効用 87

アイデアは机の引き出しにある 90

第二部 聞き上手、話し上手の氣くばり

聞き上手になるために

経営のコツは「聞く」こと 98

「聞く」ことが衆知を集める 101

三井高利も小さな氣くばりで成功した 105

民主主義の原則 109

伸びる会社と伸びない会社 112

「うなずき」も氣くばりの一つ 116

正しい判断は聞き上手から 119

話し方のコツ

話すときの気くばり 126

「ささやき」は説得技術の一つ 131

対話の少ない日本の家庭 136

話し上手には「語勢」がある 141

簡潔の気くばり 144

言葉のいい終わりをていねいに 146

才能について

ある薄幸な少女 152

どんな人間にも才能はある 157

同じ歯車でも手づくりの歯車に 160

長距離ランナーのすすめ 164

「勇氣」「判断」「洞察」を友人とせよ 168

第三部 暮らしの中の氣くばり

暮らしの再発見

あなたは挨拶をしているか 176

インドの「ナマステ」にみる氣くばり 180

語源のわからない「どうも」 184

日本の文化と伝統の知恵とは 188

仏壇と神棚の意味 190

「おじぎ」は頭をゆっくり上げる 194

挨拶は心を通わせ合う 198

妻と母親の間

「しつけ」は無言の気くばり 202

賢母かならずしも良妻ではない 206

一粒の豆 208

ヨーロッパの知恵「3K」 211

母の愛は自己犠牲の愛 216

「妻」と「母」は家庭の要 221

父親の復権

上座に坐らなくなった父親 228

教育はロマンだ 231

凛々しさはやさしさと勇氣 233

亭主よ、ヘソクリを持て 236

「面倒をみるのは高校卒業まで」 240

あとがき 243

氣くばりのすすめ

第一部 氣くばりのすすめ

気くばりのすすめ

お互いに名前をよく呼び合う

ちょっとした気くばりが、それまで險惡だった人間関係をガラッと良い方向へ変えてしまうことがよくある。たとえば嫁と姑いもうとの仲。これはもう悪くてあたり前のようなものだが、うまくやっていく方法が一つだけあるといわれている。それはお互いによく呼び合うことだ。

お嫁さんは一言でも多く「お母さん、お母さん」といっていればよい。

「お使いに行ってきます」というところは、

「お母さん、私お使いに行ってきます」

「きょうは夕飯の仕度、私がします」ではなく、

「お母さん、きょうの夕飯の仕度しやくは私がします」

であり、

「お母さん、私がお茶碗洗います」、「お母さん、先に寝やすませていただきます」

なのである。ふだんの会話の頭に「お母さん」がつくだけだから、別にむずかしくも何ともないはずである。

お姑さんも同じように、かりにお嫁さんの名が花子さんなら「花子さん、花子さん」と連発し